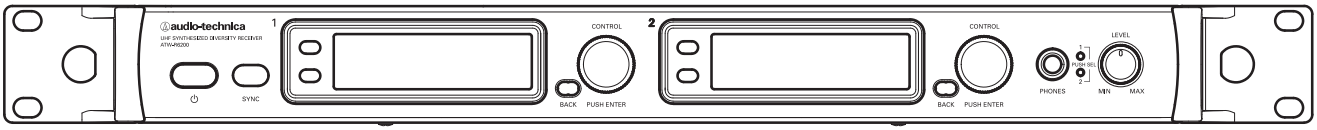
取扱説明書

audio-technica®

特定ラジオマイク専用帯

UHF SYNTHESIZED WIRELESS RECEIVER

ATW-R6200 R



お買い上げありがとうございます。
本製品は特定ラジオマイク専用帯のワイヤレスシステム用受信機です。
お使いになる前にこの説明書を必ずお読みください。
また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

特 長

- ●多数波運用を実現する高性能チューナー
- ●ダイバーシティシンセサイザー 2chレシーバー
- ●運用帯域外の外来ノイズを除去するための高性能フィルター採用
- ●視認性の高い有機 EL ディスプレイ
- ●赤外線通信による簡単な設定

目次

特長 1
安全上の注意 3
使用上の注意 4
複数のワイヤレスシステムを使用するには 4
メンテナンス上の注意 4
各部の名称と機能 < フロントパネル > 5
各部の名称と機能 < リアパネル > 6
各部の名称と機能 < ディスプレイ > 7
　ミニマムホールド機能について 8
操作のしかた 8
設定について 9
　メインメニューについて 9
　メインメニューで設定できる項目 9
　受信周波数を設定する 10
　NAME を設定する 10
　　文字を修正する場合 11
　スケルチレベルを設定する 11
　オーディオ出力レベルを設定する 11
　ライン／マイクレベルを設定する 12
　システムに関係する機能を設定する 12
　　キーロックの設定 12
　　ロックコードの設定 13
　　アンテナ電源の設定 13
　　IR リンク時における送信機の設定 14
　　スクリーンセーバーの設定 14
　　設定状況の初期化 15
　　本製品のバージョン確認 15
　ネットワークを設定する 16
　　IP アドレス取得方法の設定 16
　　IP アドレスの設定 16
　　サブネットマスクの設定 17
　　MAC アドレスの表示 17
　　DHCP サーバーの設定 17
本製品と送信機をリンクする 18
キーロックの使用方法 19
　キーロック設定のしかた 19
　キーロック解除のしかた 19
接続方法 20
外部アンテナ（別売）使用例 21
安定した受信のために 22
ラックマウントの方法 22
テクニカルデータ 23
外形寸法図 23

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。
事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

⚠ 警告	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。	⚠ 注意	この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について

⚠ 警告

- **付属の電源ケーブル以外使用しない**
  電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。
  また、故障・不具合の原因になります。
- **異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない**
  異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **火気に近付けない / 火の付いたキャンドルなどを上に置かない**
  火災の原因になります。タバコの灰皿など、本製品の上に置かない。
- **分解や改造はしない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
  感電によるけがの恐れがあります。
- **水をかけない / 水滴やみずしぶきのかかる場所に置かない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **本製品に異物 (燃えやすい物、金属、液体など) を入れない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **じゅうたんや布などで覆わない / 通気口を塞がない**
  過熱による火災など事故の原因になります。本製品内部の熱を温度上昇を防ぐため、通気口を開けています。
- **同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない**
  事故や火災の原因になります。
- **電源電圧設定を変えない**
  火災の原因になります。

⚠ 注意

- **すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができる場所に置く**
  主電源スイッチ、電源スイッチを切っても、コンセントからは完全に遮断されていません。故障、不具合の原因になります。
- **不安定な場所に置かない**
  本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。
- **換気の良い場所に置く**
  熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは、放熱をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。
- **直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。
- **本製品の上に物（花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属）などを置かない**
  万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない**
  変形、故障の原因になります。
- **アンテナで目を突いたりしない**
  けがの原因になります。

電源ケーブルについて

⚠ 警告

- **表示している電源電圧以外で使用しない**
  過熱による火災など事故の原因になります。
- **本製品以外には使用しない**
  電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。
- **異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない**
  異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。
  そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **ケーブルは釘などで固定しない、束ねたまま使用しない**
  過熱による火災など事故の原因になります。
- **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**
  過熱による火災など事故の原因になります。
- **ケーブルを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**
  断線、故障の原因になります。
- **ケーブルの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**
  感電によるけがの恐れがあります。
- **分解や改造はしない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
  感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
  感電によるけがの恐れがあります。
- **布などで覆わない**
  事故や火災の原因になります。
- **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**
  長い間掃除をしないと、火災など事故の原因になります。
- **アース線は、必ずコンセントの接続前に取り付け、コンセントを外した後に取り外す**
  火災の原因になることがあります。
  安全のため、必ず手順を守ってください。
- **すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにする**
  主電源スイッチ、電源スイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

⚠ 注意

- **長時間使用しないときは、コンセントから抜く**
  火災の原因になることがあります。
  安全のため、必ずコンセントから抜いてください。また、省エネルギーにご配慮ください。
- **足に引っ掛かりやすい場所にケーブルを引き回さない**
  故障や事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない**
  変形、故障の原因になります。

■ 使用上の注意

- 同じ周波数を同時に 2 波使用することはできません。
- 周囲の電波環境や複数台使用により、干渉ノイズが発生することがありますので注意してください。
- ワイヤレスシステムは自動車のスパークノイズ、照明用調光装置、コンピューター、OA 機器、電子楽器などの影響を受ける場合があります。影響を受けにくい位置に設置して使用してください。
- 本製品は必ず当社指定の機器との組合せで使用してください。
- 接続するケーブルのプラグは根元まで確実に差し込んでください。
- ワイヤレスシステムに使われている UHF 帯の電波は波長が短く直進性が強いので、送信機と受信機間に障害物があると音切れの原因となる場合があります。障害物がない状態で使用してください。
- ミキサーに接続する場合、ファントム電源をオフにしてください。
- 本製品は電波法に準拠して製造した日本国内専用モデルです。海外の法律には適合しておりません。
  海外で使用すると各国の法律により処罰されることがありますので、海外では使用しないでください。
- 長期間使用しない時には、電源プラグを抜いてください。
- AC100V の電源で使用してください。本製品の定格は「テクニカルデータ」を参照してください。

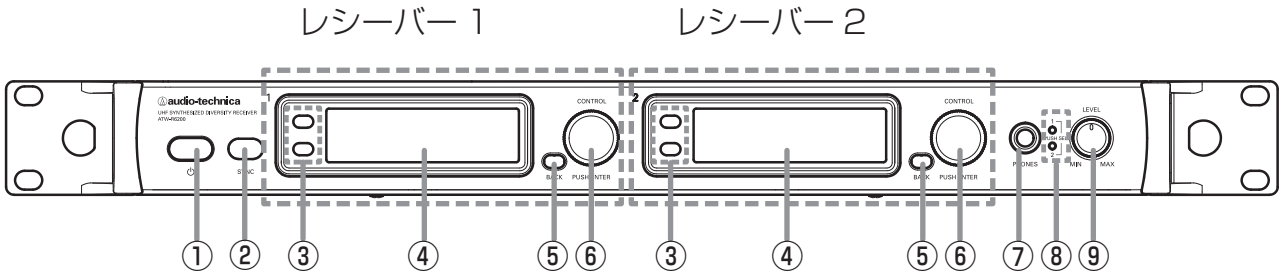
■ 複数のワイヤレスシステムを使用するには

- 複数台同時使用の場合、送信機同士は 80cm 以上、送信機と受信機は 3m 以上離してください。
- 複数台使用する際は音をモニターしながら送信機の電源を順にオンにして雑音のないことをお確かめください。

■ メンテナンス上の注意

- 汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 長い間保存する時には、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

各部の名称と機能〈フロントパネル〉



① 電源スイッチ
スイッチを押すと電源が入ります。
電源が入ると、ディスプレイが点灯します。
※ 電源を入れても約 5 秒間音声は出力されません。

再度スイッチを押すと電源が切れます。

② IR 受光部
送信機との IR リンクの際に使用します。
※レシーバー 1、2 共通で使用します。

③ ファンクションボタン
ボタン上（FN1）：レベルメーター画面表示に切り替え
ボタン下（FN2）：ミニマムホールド（レベルメーター画面表示の場合のみ）

④ ディスプレイ
本製品の状態や設定のメニューが表示されます。

⑤ BACK ボタン
押すと前の画面に戻ります。

⑥ コントロールダイヤル
ダイヤルを回して設定項目を選び、押して決定します。

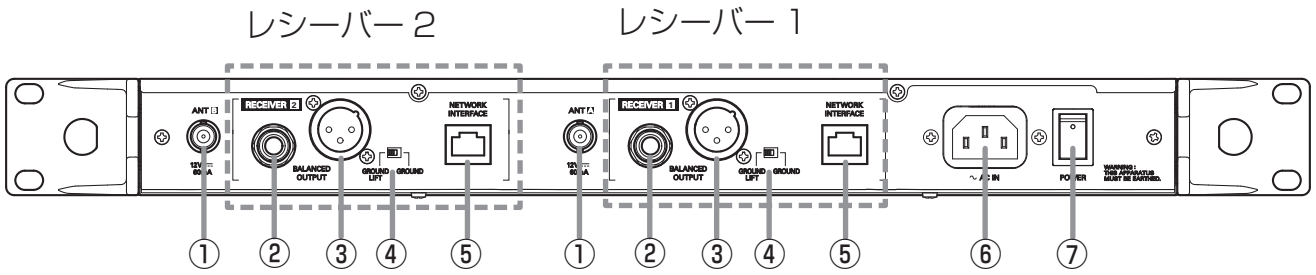
⑦ ヘッドホンモニター（φ6.3mm）出力端子
モニター用ヘッドホン出力端子です。レシーバー 1 およびレシーバー 2 のモニターができます。

⑧ チャンネルインジケーター
レシーバー 1 およびレシーバー 2 のどちらをモニターしているかを表示します。

⑨ ヘッドホンボリューム
モニター用ヘッドホンの音量調整の際に使用します。
ボリュームのつまみを押すことにより、レシーバー 1 と 2 を切り換えることができます。

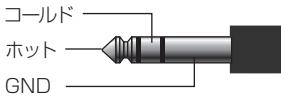
※ リアパネルの出力端子のレベルには影響しません。

各部の名称と機能〈リアパネル〉

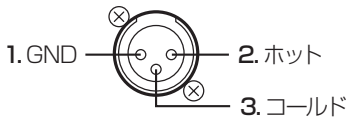


① アンテナ入力端子
各アンテナ端子から DC12V の供給ができます。
別売アクセサリーの接続が可能です。

② バランス出力端子 （φ6.3mmステレオ標準ジャック）
バランス出力端子です。



③ バランス出力端子 (XLR３ピン オス)
バランス出力端子です。



④ グランドリフトスイッチ
バランス出力の GND ピンをグランドから切り離すスイッチです。
通常は「GROUND」で使いますが、グランドループによるハム音が出る場合はスイッチを「GROUND LIFT」側に切り換えてください。

⑤ ネットワークコネクタ
PC とのイーサネット接続により、PC でのモニターや制御が可能です。詳しくは、弊社プロフェッショナル SS 課までお問い合わせください。

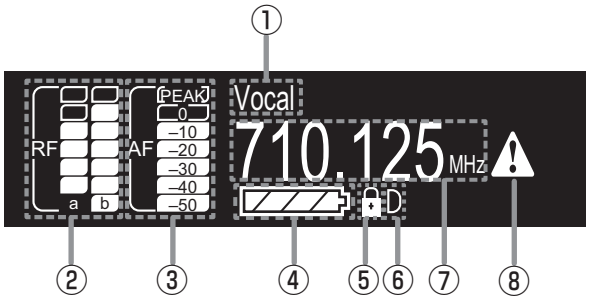
⑥ AC インレット端子
付属の電源コードを使用し、AC100V 50/60Hz の電源に接続してください。

※電源コードのアース端子は必ずアースに接続してください。アース接続は必ず、電源プラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず先に電源プラグをコンセントから抜いてください。
※本製品は日本国内専用です。海外では使用できません。

⑦ 主電源スイッチ
主電源スイッチを押すと電源が入ります。
フロントパネルの電源スイッチを入れる前に、主電源スイッチを入れてください。

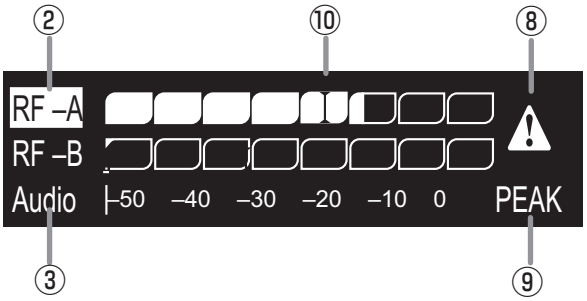
各部の名称と機能〈ディスプレイ〉

メイン画面１



FN1

メイン画面２



メイン画面でファンクションボタン（FN1）を押すたびに画面が切り替わります。
※メイン画面以外の時にファンクションボタン（FN1）を押すと、メイン画面１に戻ります。

① NAME 表示
設定した NAME を表示します。

② RF レベルインジケーター
アンテナＡおよびＢのそれぞれの受信状態を表示します。

③ AF レベルインジケーター
受信した音声信号のレベルに応じて点灯します。

④ 電池残量表示
送信機の電池残量を表示します。

：75% 以上電池残量があります。

：50 ～ 75% 電池残量があります。

：25 ～ 50% 電池残量があります。

：電池残量が 25% 以下です。

：電池を取り替えてください。

※電池の消耗具合を簡単に見分けるものです。目安として使用してください。
※電池残量がなくなったら、送信機の電池を取り替えてください。充電式電池を使用している場合は、充電を行ってください。

⑤ キーロック状態表示&リモート状態表示

：キーロック設定あり

：ネットワークのリモート状態

⑥ DHCP サーバー動作表示
DHCP サーバーの動作設定が [ON] のとき表示されます。

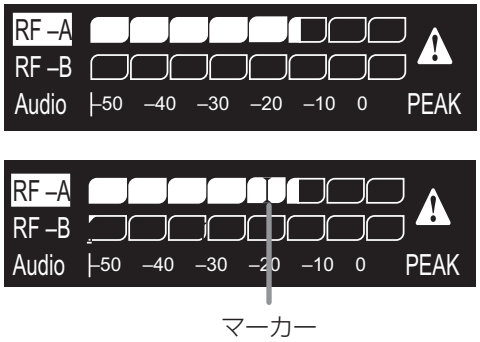
⑦ 周波数表示
設定した周波数を表示します。

⑧ ミュート表示
ミュート時にマークが表示されます。

⑨ PEAK 表示
AF レベルが +6dBV 以上の場合に表示されます。

⑩ マーカー（ミニマムホールド機能 ON 時）
RF レベルの最小値に固定されます。

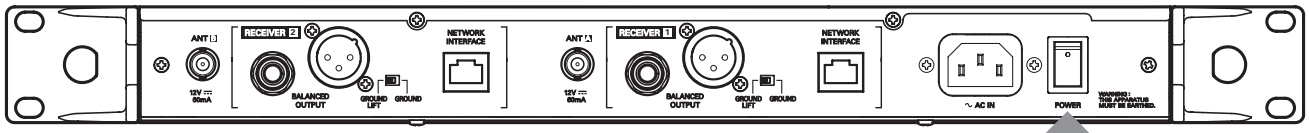
ミニマムホールド機能について



① メイン画面でファンクションボタン（FN1）を押すと、メイン画面 2 が表示されます。

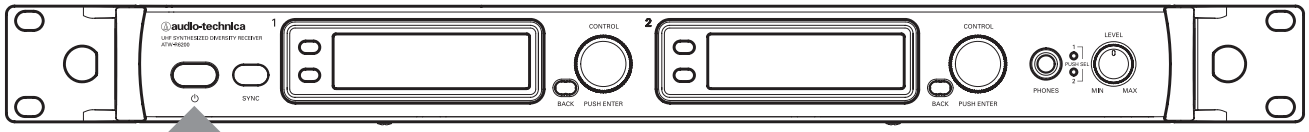
② ファンクションボタン（FN2）を長押しすると、ミニマムホールド機能が ON になり、マーカーが表示されます。
- マーカーは、入力した RF レベルの最小値の位置に固定されます。
- マーカーの位置より大きい RF レベルが入力されても、マーカーは動きません。
- マーカーの位置より小さい RF レベルが入力されると、マーカーは RF レベルに合わせて動きます。
- マーカーの位置をリセットするには、ファンクションボタン（FN2）を押します。

操作のしかた



リアパネル

① 主電源スイッチ



フロントパネル

② 電源スイッチ

① リアパネルの主電源スイッチを [ON] にします。
② フロントパネルの電源スイッチを [ON] にします。
- ディスプレイが点灯し周波数が表示されます。

③ 受信する周波数を設定します。
④ 送信機の電源を入れます。
- ＲＦレベルインジケーターが点灯します。

⑤ RF レベルインジケーターを確認します。
- アンテナ A ／ B のどちらかが点灯することを確認してください。

⑥ マイクに音声を入れます。
- ＡＦレベルインジケーターが点灯することを確認してください。

設定について

メインメニューについて

メインメニューから本製品の各設定ができます。

① メイン画面でコントロールダイヤルを押す、または回すとメインメニューが表示されます。

② コントロールダイヤルを回して設定したい項目を選択します。

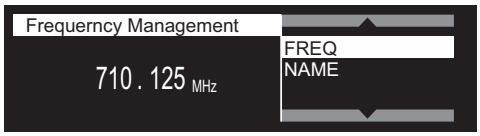
③ コントロールダイヤルを押すと選択した項目の設定画面が表示されます。
- BACK ボタンを押すと 1 つ前の画面に戻ります。
- 途中で設定を中止する場合は BACK ボタンを押します。
- 設定モードに入った状態でボタン操作を約 30 秒行わないと、元の画面に戻ります。

メインメニューで設定できる項目

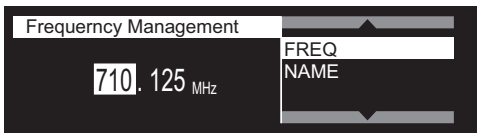
Frequency Management	受信周波数の設定、NAME を設定します。
Squelch	スケルチレベルの設定をします。
Audio Settings	オーディオ出力レベルの設定、ライン／マイクレベルの設定をします。
System Settings	以下の機能を設定します。 • キーロックの設定 • アンテナ電源の ON/OFF • IR リンク時の送信機の設定 • スクリーンセーバーの設定 • 設定情報の初期化
TX SYNC	送信機とリンクします。
Network	ネットワークの設定をします。

受信周波数を設定する

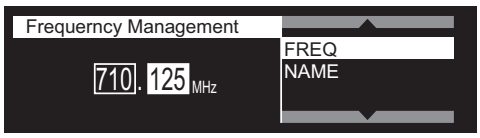
① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Frequency] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



② [FREQ] を選択し、コントロールボタンを押します。



③ コントロールダイヤルを回して、上位 3 桁を設定します。設定が完了したら、コントロールダイヤルを押します。



④ コントロールダイヤルを回して、下位 3 桁を設定します。設定が完了したら、コントロールダイヤルを押します。
- 設定が完了します。

NAME を設定する

設定できる文字は以下のとおりです。

- 英字（大文字・小文字）
- 記号 (+、ー、ピリオド)
- 数字
- スペース

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Frequency] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [NAME] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ コントロールダイヤルを回して、設定したい文字を表示させコントロールダイヤルを押します。
- 文字が入力され、カーソルが右に移動します。

④ ③と同じ手順で文字をすべて入力し、コントロールダイヤルを押します。
- NAME が保存されます。

- 文字は 10 文字すべてを入力する必要があります。10 文字入力しない場合は、スペースのままコントロールダイヤルを押して 10 文字目までカーソルを移動させます。

文字を修正する場合

入力した文字を修正する方法は 2 種類あります。

●文字を削除したい場合
文字選択時に、コントロールダイヤルを回して [BS] の文字を選択します。コントロールダイヤルを押すと、1 つ前の文字が削除され、カーソルが左に 1 つ戻ります。

●修正したい文字に移動したい場合
BACK ボタンを押すとカーソルを 1 つ前に戻すことができます。変更したい文字までカーソルを移動させ、修正したい文字を変更します。

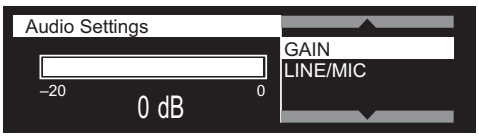
スケルチレベルを設定する

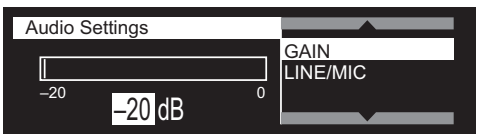
① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Squelch] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② コントロールダイヤルを回して、設定したい数値を選択します。
- 表示されているメーターは RF レベルを表示しています。
- OFF ～最大 50dBμV の間で設定できます。
- 初期状態では [20dBμV] に設定されています。

③ コントロールダイヤルを押します。
- 設定が完了します。

オーディオ出力レベルを設定する





① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Audio Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [GAIN] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ コントロールダイヤルを回してオーディオ出力レベルを設定します。
- コントロールダイヤルを回すたびに 2dB ずつ大きく／小さくなります。
- -20 ～ 0dB まで設定できます。

④ コントロールダイヤルを押します。
- 設定が完了します。

ライン／マイクレベルを設定する

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Audio Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [LINE/MIC] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ コントロールダイヤルを回して、[LINE] または [MIC] を選択します。

④ コントロールダイヤルを押します。
- 設定が完了します。

システムに関係する機能を設定する

キーロックの設定

本製品の設定を変えることができないように設定します。
※初期状態は [OFF] に設定されています。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [Key Lock] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ キーロック設定を選択し、コントロールダイヤルを押します。
- 設定が完了します。

ロックコードの設定

ロックコードはキーロックのための 4 桁の数字です。(「0000」から「9999」まで設定可能です。)
キーロックが有効になると、メイン画面からメニュー画面に入る際、ロックコードが必要となります。
※初期状態は「0000」に設定されています。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [Lock Code] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ ダイヤルボタンを回して、数字を選択します。設定したい数字を選択し、コントロールダイヤルを押します。

④ 同じ操作を繰り返して 4 桁の数字を入力し、コントロールダイヤルを押します。
• 設定が完了します。

アンテナ電源の設定

アンテナ入力端子に電源を供給するかを設定します。
※初期状態は [OFF] に設定されています。
※レシーバー 1 のみで設定できます。
※設定を [ON] にすると、アンテナ A、B の両方に電源を供給します。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [ANT PWR] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

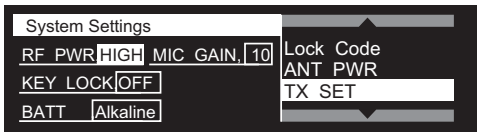
③ コントロールダイヤルを回して、[ON]/[OFF] を選択し、コントロールダイヤルを押します。
• 設定が完了します。

IR リンク時における送信機の設定

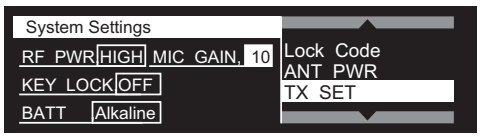
本項目で設定した内容を IR リンクで、送信機に設定できます。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

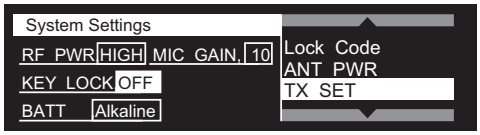
② [TX SET] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



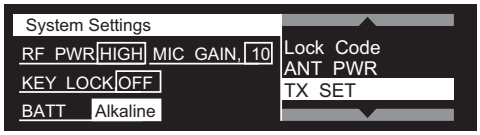
③ [RF PWR]（送信出力）の設定を行います。コントロールダイヤルを回して、[HIGH]/[LOW] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



④ [MIC GAIN]（マイクゲイン）の設定を行います。コントロールダイヤルを回して、ゲインを選択し、コントロールダイヤルを押します。
- 2dB ステップで設定できます。
- 最大 20dB まで設定できます。



⑤ [KEY LOCK]（送信機のキーロック）の設定を行います。コントロールダイヤルを回して、[ON]/[OFF] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



⑥ [BATT]（送信機で使用する電池の種類）の設定を行います。コントロールダイヤルを回して、[Alkaline]/[Ni-MH] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

Alkaline	アルカリ乾電池を使用する場合に選択します。
Ni-MH	ニッケル水素電池を使用する場合に選択します。

- 設定が完了します。

※送信機とリンクをする場合は、「本製品と送信機をリンクする」（P.18）を参照ください。

スクリーンセーバーの設定

ディスプレイが消灯するまでの時間を設定します。
※初期状態は 1 分でディスプレイが消灯するよう設定されています。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [Screen Saver] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

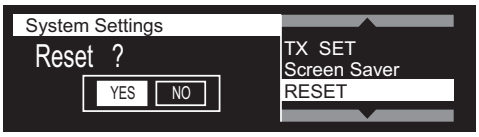
③ コントロールダイヤルを回して、設定したい時間を選択し、コントロールダイヤルを押します。
- 設定が完了します。
- [∞] を選択すると、ディスプレイが消灯しない設定になります。
- 1 分から 99 分まで設定できます。

設定状況の初期化

設定情報を工場出荷時の状態にします。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [RESET] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



③ [YES] を選択し、コントロールダイヤルを押します。
- リセットが開始され、終了すると再起動します。

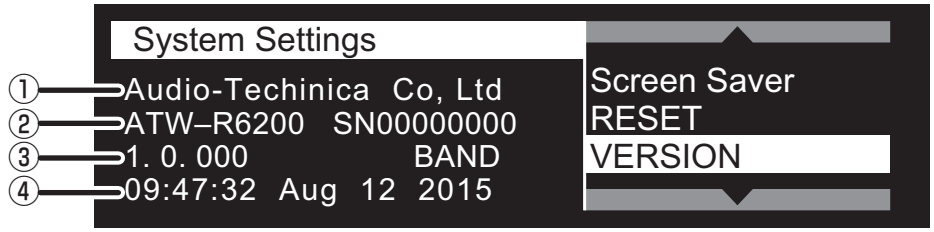
本製品のバージョン確認

本製品のバージョンなどの情報を表示します。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [System Settings] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [VERSION] を選択します。
- 本製品の情報が表示されます。

●確認できる項目



① 会社名
② 本製品名、製造シリアル番号
③ ファームウェアのバージョン、周波数バンド名
④ ファームウェア作成日時

ネットワークを設定する

PC とのイーサネット接続により、PC でのモニターや制御が可能になります。詳しくは弊社プロフェッショナル SS 課までお問い合わせください。

本項目で設定した内容は、本製品を再起動するまで設定は反映されません。各項目を設定した後に再起動のアナウンス画面が表示されます。設定を変更する際は、設定完了後、必ず本製品を再起動してください。

IP アドレス取得方法の設定

IP アドレスの設定方法について設定します。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Network] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [IP Select] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ 設定したい項目を選択し、コントロールダイヤルを押します。

AutoIP	IP アドレスを自動で割り当てるように設定します。
STATIC	固定 IP アドレスを使用するように設定します。

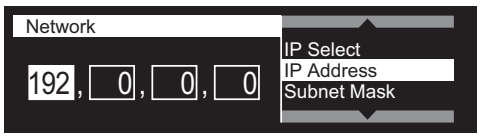
- 設定が完了します。ネットワークの設定がすべて完了した後、本製品を再起動してください。

IP アドレスの設定

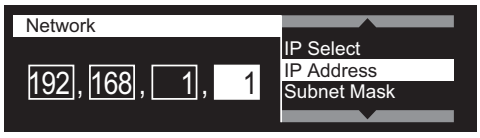
IP アドレスを設定します。
※ [IP Select] で [STATIC] を設定しているときのみ、設定できます。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Network] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [IP Address] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



③ ダイヤルボタンを回して、設定したい数字を選択し、コントロールダイヤルを押します。



④ 同じ操作を繰り返してすべての数字を入力し、コントロールダイヤルを押します。

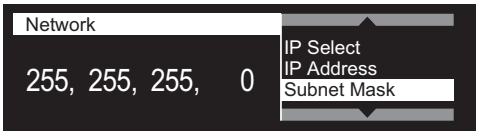
- 設定が完了します。ネットワークの設定がすべて完了した後、本製品を再起動してください。

サブネットマスクの設定

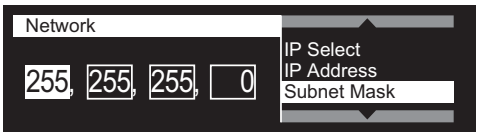
サブネットマスクを設定します。

※ [IP Select] で [STATIC] を設定しているときのみ、設定できます。

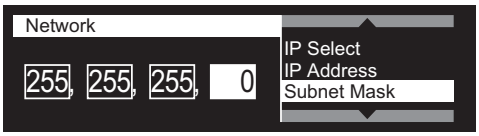
① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Network] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



② [Subnet Mask] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



③ ダイヤルボタンを回して、設定したい数字を選択し、コントロールダイヤルを押します。



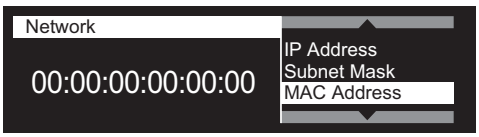
④ 同じ操作を繰り返してすべての数字を入力し、コントロールダイヤルを押します。

- 設定が完了します。ネットワークの設定がすべて完了した後、本製品を再起動してください。

MAC アドレスの表示

MAC アドレスを確認できます。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Network] を選択し、コントロールダイヤルを押します。



② [MAC Address] を選択します。

- MAC アドレスが表示されます。

DHCP サーバーの設定

DHCP サーバーを使用するかどうかを設定します。

※ DHCP サーバーを使用する場合、「IP アドレス取得方法の設定」(P.16) で [STATIC] (固定 IP アドレス) を選択する必要があります。

① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [Network] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② [DHCP Server] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

③ ダイヤルボタンを回して [ON]/[OFF] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

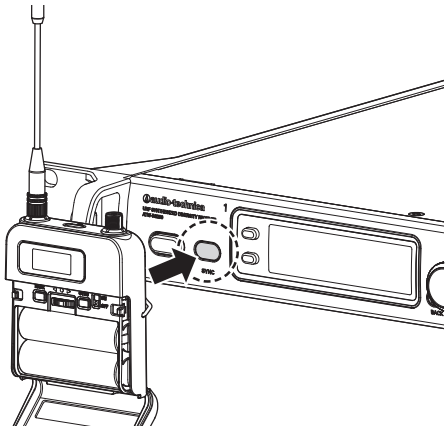
- 設定が完了します。ネットワークの設定がすべて完了した後、本製品を再起動してください。

本製品と送信機をリンクする

本製品で設定した内容を IR リンクで、送信機に設定できます。
※あらかじめ「IR リンク時における送信機の設定」（P.14）を参照し、設定を行ってください。

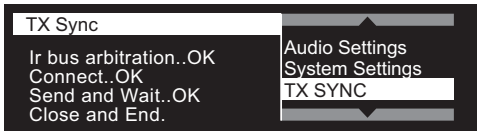
① メインメニューからコントロールダイヤルを回して [TX SYNC] を選択し、コントロールダイヤルを押します。

② 通信待機中の画面が表示されます。
- BACK ボタンを押すと、メインメニュー画面に戻ります。
- 通信待機中で、ボタン操作を約 60 秒間何も操作しないと、メインメニューに戻ります。



③ 本製品の IR 受光部と送信機の IR 受光部を向かい合わせます。

④ 送信機の SYNC ボタンを押します。
- 通信が終了するまで数秒待ちます。



⑤ 本製品と送信機のリンクが完了すると、完了画面が表示されます。
- 本製品で設定した内容が送信機にリンクされます。
- リンク完了後、自動でメイン画面に戻ります。
- リンクに失敗した場合は、エラー画面が表示され、メインメニューに戻ります。本製品と送信機の IR 受光部を確認し、再度リンクを行ってください。
- リンクをキャンセルする場合は、BACK ボタンを押してください。メインメニューに戻ります。

キーロックの使用方法

キーロックは不用意に本製品の設定が変更されないように、メインメニューに入れないようにする機能です。
キーロックを [ON] に設定していると、メインメニューを表示するのに、ロックコードが必要となります。

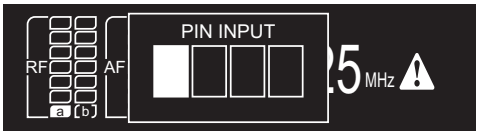
キーロック設定のしかた

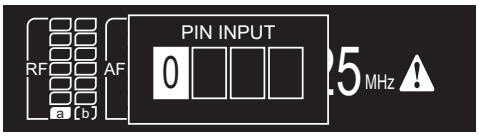
① ロックコードを設定します。
- 詳細は P.13「ロックコードの設定」を参照ください。
- 設定した 4 桁の数字は忘れないようにしてください。

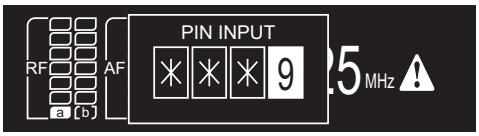
② キーロックの設定を [ON] に設定します。
- 詳細は P.12「キーロックの設定」を参照ください。

③ BACK ボタンを押してメイン画面に戻ると、キーロックが有効になります。

キーロック解除のしかた







① キーロックが有効なとき、メイン画面でコントロールダイヤルを押す、または回すと、PIN INPUT（ロックコード入力）画面が表示されます。

② 設定を解除するには、4 桁のロックコードを入力します。
コントロールボタンを回して数字を選択し、コントロールボタンを押します。
数字を入力すると、カーソルが右に移動します。同じ操作を繰り返して 4 桁のロックコードを入力します。

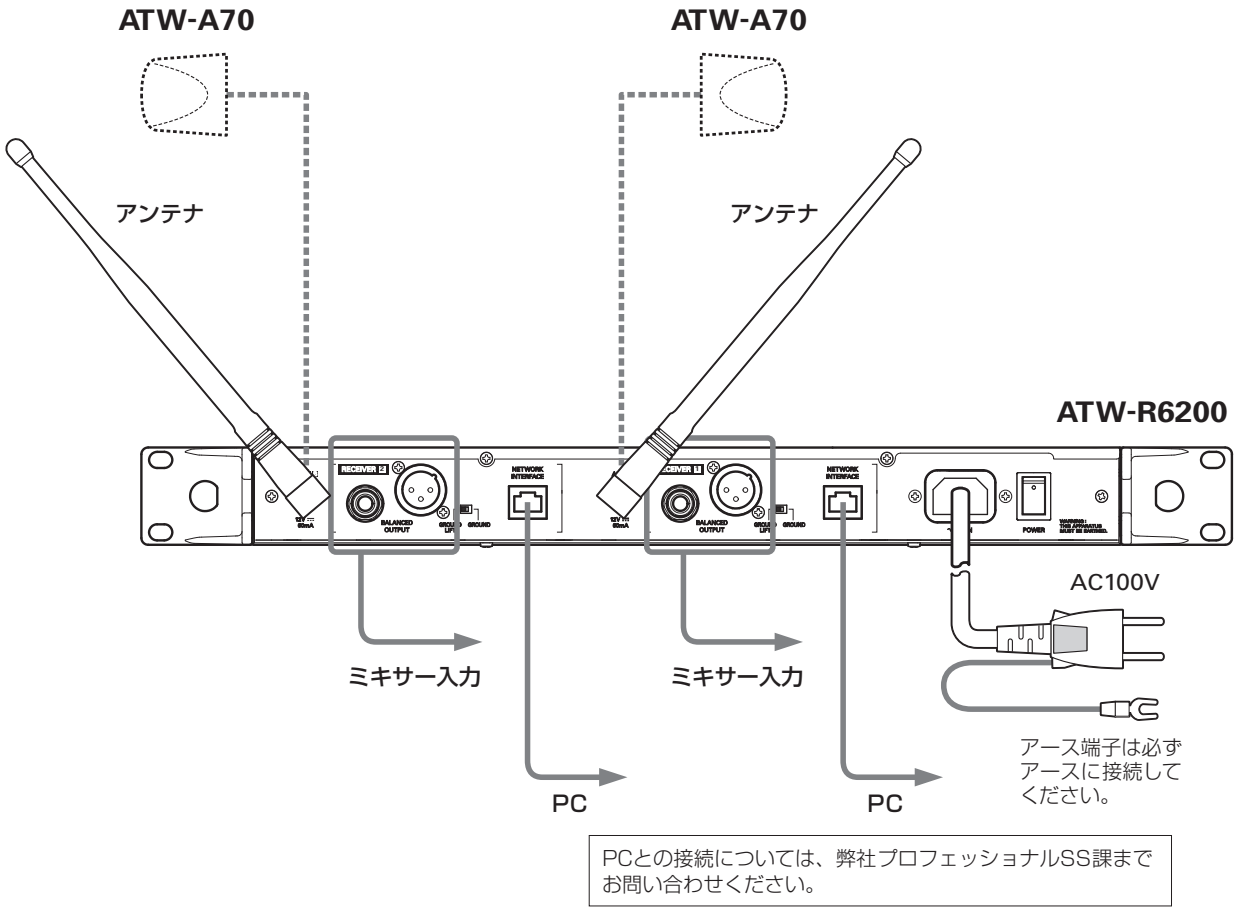
③ 4 桁のロックコードをすべて入力したら、コントロールボタンを押します。正しいロックコードを入力すると、メインメニューが表示されます。

④ キーロックの設定を [OFF] に設定すると、キーロックは解除できます。

接続方法（基本接続）

本製品を 1 台で使用する場合の接続例です。
複数台接続する場合は、別売の分配器の取扱説明書を参照ください。

接続例



●上図は付属のホイップアンテナを用いた場合の接続例です。広い場所で使用される場合や、ステージなどではアクティブインテリアアンテナ ATW-A70（別売）などを接続してください。（点線部）

外部アンテナ ATW-A70 使用時の注意

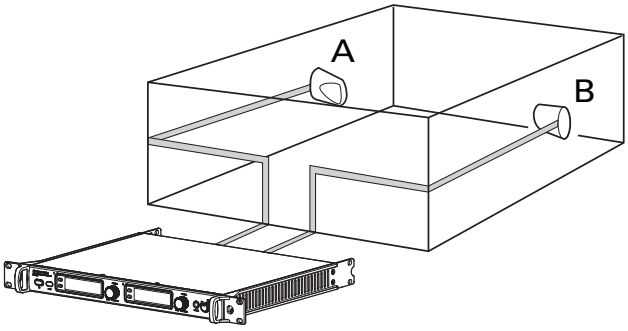
● ATW-A70 を使用する場合は、「アンテナ電源の設定」（P.13）を参照し、アンテナ電源を [ON] に設定してください。
●配線終了後 ATW-A70 の動作確認用 LED が点灯していることを確認してください。

外部アンテナ（別売）使用例

＊アンテナ設置上の注意

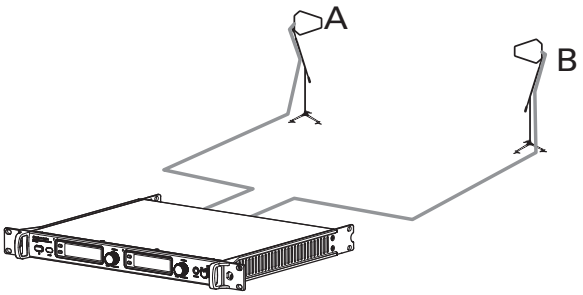
アンテナ A とアンテナ B の距離は、30cm 以上 30 m以内としてください。
ダイバーシティ受信ができなくなる可能性があります。

1 セット使用時（ATW-A70）



ATW-A70 を使用する場合は、「アンテナ電源の設定」（P.13）を参照し、アンテナ電源を [ON] に設定してください。

1 セット使用時（ATW-A49）

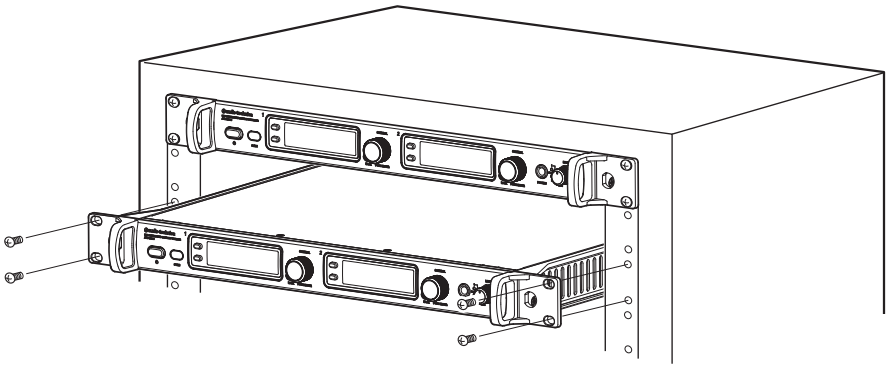


安定した受信のために

本製品のアンテナと送信機の間に障害物がありますと、電波が十分届かない場合があります。
見通しの良い場所に設置してください。設置場所が限定される場合は外部アンテナをご使用ください。

ラックマウントの方法

- ラックへの取り付けネジは付属していません。
- ラックマウントの際はラックの内部に熱がこもらないよう、換気に配慮してください。
  図のように受信機間は 1 段分開けることをおすすめします。



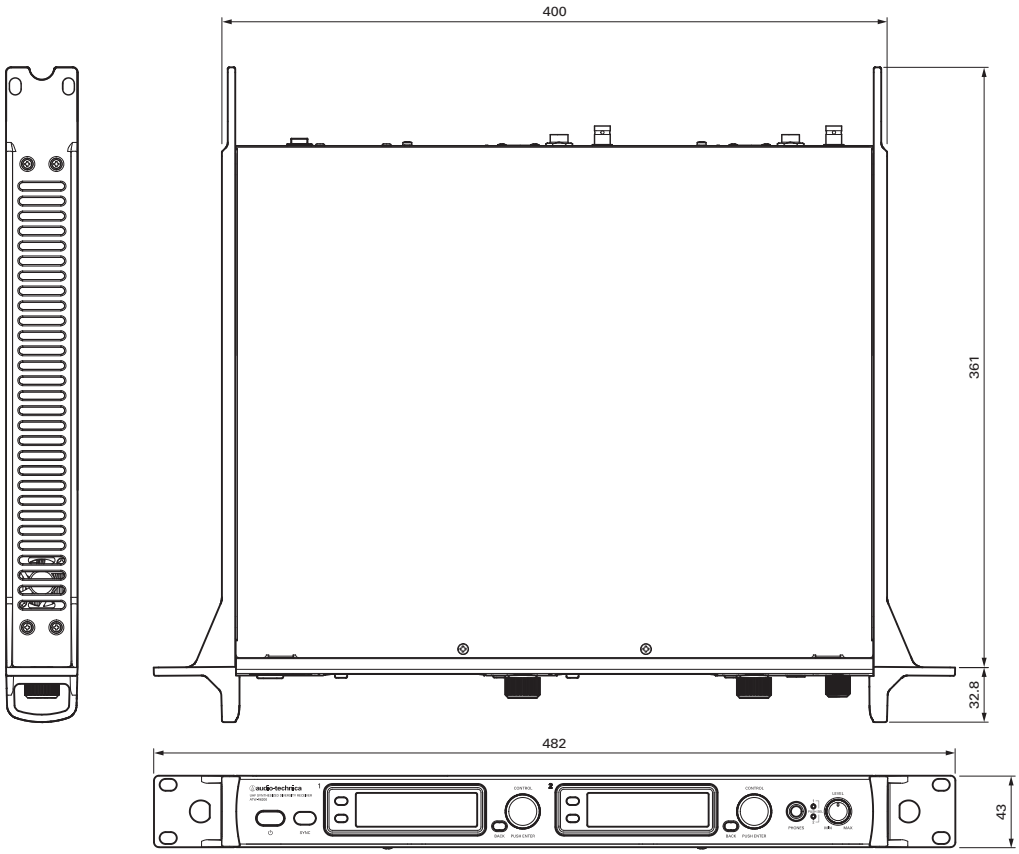
テクニカルデータ

受信方式	：ダブルスーパーヘテロダイン
受信周波数	：710.125 ～ 713.875MHz （特定ラジオマイク専用帯）
受信チャンネル	：全３１チャンネル （125kHz 間隔）
受信感度	：20dBμV
総合歪率	：1%以下（63dBμV 入力、1kHz、周波数偏移± 10kHz）
SN 比	：110dB 以上
オーディオ出力レベル	：XLR バランス +6dBV（周波数偏移± 15kHz、600 Ω 負荷）
	：φ 6.3 バランス +6dBV（周波数偏移± 15kHz、600 Ω 負荷）
アンテナ入力端子	：BNC 型（50 Ω）DC12V 出力（最大 60mA × 2）
オーディオ出力端子	：XLR3 ピン オス（バランス）
	φ 6.3 ステレオ標準ジャック（バランス）
ヘッドホン出力端子	：φ 6.3 ステレオ標準ジャック、32 Ω負荷時最大 100mW + 100mW
電源	：AC100V 50/60Hz
動作温度範囲	：5℃～ 45℃
消費電力	：25W
外形寸法（突起物を除く）	：482（幅）× 43（高さ）× 361（奥行き）mm
重量	：4.7kg

●付属品： 1 ／ 2λホイップアンテナ× 2、電源コード、足× 4（取り付けネジ 4 本）
●本製品は日本国内専用です。
●改良などのため予告なく変更することがあります。

外形寸法図

（単位 : mm）



株式会社オーディオテクニカ
http://www.audio-technica.co.jp/proaudio

製品保証および修理などにつきましてはお買い上げのお店、または当社ホームページ記載の各営業所までお問い合わせください。

232305391　2015.09